

令和6年度 第2回 大垣市行政改革推進審議会 会議録

<p>日 時：令和6年10月2日（水）午前9時20分から午前11時50分まで</p> <p>場 所：大垣市役所 6階 6-3 会議室</p> <p>議 題： (1) 令和6年度事務事業の検証</p> <p style="margin-left: 20px;">① 人事管理事業</p> <p style="margin-left: 20px;">② かがやき婚活事業・女性（結婚）相談事業</p> <p style="margin-left: 20px;">③ 審議会等運営事業</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 令和6年度事務事業見直しの提言（案）について</p> <p>出席者（敬称略）</p> <p style="margin-left: 20px;">（委員）谷江 幸雄〈会長〉</p> <p style="margin-left: 40px;">吉田 康夫、高木 健志、浅井 光寿、田中 禎一、多和田 智子、岡本 敏美、 所 ひなの、小林 大騎【計9人】</p> <p style="margin-left: 20px;">（市及び事務局）</p> <p style="margin-left: 40px;">後藤 威博（人事課長）、古山 樹宏（市民活動推進課長）、 牧岡 さつき（男女共同参画推進室長）、土川 剛史（人事課主幹） 岩崎 義博（総務部長）、豊田 貴洋（行政管理課長）、 加藤 重徳（行政管理課主幹）、後藤 雅司（行政管理課主査）、 今尾 智子（行政管理課主査）</p> <p>欠席者（敬称略） （委員）野崎 道哉、柴田 仁夫、杉田 邦隆、田中 慎也</p>	
事務局	<p>※ 委員の交代を紹介</p> <p>※ 行政の意思形成過程にあるものとして、非公開審議を宣言</p>
事務局	<p><会議冒頭あいさつ></p>
事務局	<p>※ 委嘱状（委員席に配置）</p> <p>※ 会長の選出について、委員に意見を求める。</p>
委 員	<p>※ 経験のある谷江委員に依頼してはどうかという意見有。</p>
委員一同	<p>※ 異議なし</p>
会 長	<p><谷江委員 会長就任を承諾し、会長席に移動></p> <p><就任のあいさつ></p> <p><議事進行については、大垣市行政改革推進審議会設置条例第5条第2項の規定により、会長が会務を総理することとなっているため、以降の議事は会長が執り行う。></p> <p>※ 議事録署名者として、吉田 康夫 委員と小林 大騎 委員を指名。</p> <p>※ 事務局に対し、議題(1) 令和6年度事務事業の検証 ①人事管理事業につ</p>

	<p>いての説明を要請。</p>
担当課	<p>※ 人事管理事業について説明。</p>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの説明に対してご質問等ございますか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づく数字や要件というのは書いてある通りで、特に人材は、少子高齢化という人数が減っている中において、新しい企業の進出などの要因により、人材の獲得に対しては、困難がまだまだ予測されるどころかと思えます。 ・最初のページでありますように、いろいろな取組みが増えてきている中において、相対人数としては増えている傾向があります。今の既存の職員の方々を対象としたスキルアップを図ることによって、他部署への転換や人材活用が、これから必要不可欠になってくるのではなかろうかと思えます。 ・縦割り行政というのはよく言われており、縦割りであるがゆえに横の連絡が良くなく、手間がかかり不便という話を聞きます。そのことも踏まえた上で、他流間の交流も含めたスキルアップ的な発想について、お考えがあるのかお聞きしたいと思います。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・社会が高度化、複雑化していく中で、職員も専門性を求められますので、同じような部局で異動を繰り返す職員が多くなっているのかもしれない。 ・石田市長は「共創」というキーワードを使っており、専門性を各部局で高める中で、横との情報の共有化や、他の部局の仕事で効果を高められる方法の検討について、今の組織では取り組んでおります。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・DXの推進は、情報担当部門が主に進めています。人員の削減のためにはDXの推進が必要となりますので、DX人材育成計画というものを策定して、DX推進リーダーとなる職員を各部局に配置しています。その職員が、AIやオンライン申請、RPA、EBPMといったデータに基づく政策実現などの研修をして、できる限りそのような人材を増やして、仕事の効率化、職員の人員の効率化を目指しております。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職はそれなりの応募者数があるとのことですが、技術者の人材確保はだいぶ苦勞されているということで、年度途中からの採用も考えてみてはという思いがあります。4月からではなく、常に募集を行うということが、特に技術系の人たちには良いかなと思っています。 ・もう一つは、庁舎内の受付などは民間の方がやられていますが、もっと民

	<p>間に支援していただく体制をとっていただければと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、大手の研修センターなどへ出かけられて研修を受けているということですが、多分、全員の方が行っているわけではないですよ。後日、行かれた方が中心となって、他の職員の方へ伝える場を設けていただき、できるだけ、全員が同じようなスキルを持つ状況にさせていただくと良いかなと思います。 <p>担当課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1点目の技術職を中心とした採用困難に対する対応についてですが、4月採用が普通の対応ですが、技術職については、年間を通して常に募集をかけている状況です。また、社会人経験者を重視していますので、採用年齢の引き上げも行っております。 ・民間企業ですと、昨日、来年4月採用の内定式が行われている状況の中で、実際私どもは、今、一般事務職の最終面接日程の中にいますので、やはり民間と公務員では、採用のスケジュール感が少しずれています。このことが、公務員を目指す人が少なくなっている要因の一つではないかと私自身は思っており、もう少し採用スケジュールを前に持つことで、民間と競合していけるようなことも考えていかなければいけないと思っております。 ・2点目については、民間に任せられるところは民間に任せるべきと私どもも思っておりますし、市民の皆様へのサービス提供部門でも、市民協働というキーワードのもとに、市民の皆さんに担っていただいている状況です。 ・3点目については、研修に参加できる者は限られるため、横展開を行うことを積極的にしていきたいと思っております。研修を受けた人はスキルを持って帰って来ますが、それを研修に行けなかった職員にも展開できるようにすることを考える必要があります。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1ページ目で人員の推移をお示しいただき、学校の先生だと思っておりますが、教育の部門が年々減っており、17年比で78名マイナスとなっています。一方、病院では、おそらく高齢者の方が増えている関係で、220名プラス、トータルで61人のプラスという推移となっております。求められる少子化対策もそうですし、子育てもそうですけれども、教育と病院という部門が、どの市町村でも非常に大事な部分となっていると思います。教育が減っているのは、もちろん生徒数が減り、クラス数が減っているからだと思っておりますが、いわゆる先生の数のトレンドというのは、今後どのようになっていますか。 ・2点目ですが、3ページ目の1人当たりの時間外勤務数についてですが、弊社も民間企業ですので、この時間外勤務数が気になるころではあります。5年度の病院を除く合計は18.8時間で、各部局で見ると、いろいろ

	<p>ろな仕事があるため一律にはならないですが、少し目立っているのが経済部です。毎年、時間外が非常に多くなっているのは、何か特殊事情があるのかどうか、差し支えない程度でご教示いただけたらと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3点目ですが、先ほどからDXの推進などが出てまして、これは、市町さん、民間問わず、デジタルトランスフォーメーション推進に非常に力を入れているところです。特に公共の市役所さんにおいては、市民サービスの利便性の向上で、推進していくことが必要だと思いますが、これを推進していくことで、今後、人の増加を見込んでいる部分や、逆に、市役所内部の業務が効率化され、人が減るといったことはありますか。当初入れるときは確かに負荷がかかるため、一時は人が増えますけれども、ある程度DX化が進めば、人がやっつてることを機械がやってくれるからということで、その辺りの捉え方をご説明いただければと思います。
<p>担当課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、教育の部門についてですが、こちらには教員が入っておらず、教育委員会の事務局の職員や、給食センターの職員などの人数になっております。 ・経済部で時間外が多い要因は、イベントになります。大垣市は、他の自治体に比べてイベントが多いようで、イベントがある土日に業務が多く、また、安全管理の面で多大なる準備が必要であるため、時間外が増えている状況でございます。
<p>担当課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3点目のDXの考え方ですが、市民の皆さんにサービスを提供するのは、機械ではなく、職員であると私自身は思っておりますので、DXで裏方の作業効率化を図ることにより、職員が市民の皆さんを迎える体制が作られると考えております。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務について、多くなる人とそこまで多くならない人の偏りが結構あるんじゃないかなという印象があり、人による負担感がかなり違う気がしております。教育委員会でもよく問題になるのですが、教育に関連した苦情や要望が行き過ぎで、いわゆる最近でいうカスハラに対する対応が、心理的にも負担感が大きくなり、それが休職や退職となるようなことがあると思います。その辺りを心配しており、そういった部分を人事課としてどのように考えてみえるか教えていただきたいです。
<p>担当課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1点目につきましては、職員の時間外勤務で偏りを生まないということを私どもも推進したいと思っておりますので、月80時間を超えるような残業はやめましようとしています。月80時間を超える残業については、翌月把握して、所属長が業務の中身を確認し、本人の負担感、今後の改善の見込みを面接するという制度を運用し、偏りがあればなくすというような取

	<p>組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2点目につきましては、今のところ、カスハラを原因とした休職や退職はないのではないかと思います、やはり職員が働きやすい職場は必要でございます。職員が負担感を持つようなことはないようにし、職場のグループみんなで平準化して負担していくということが、働きやすい職場作りとなり、そういうチームワークが生まれる形にしていきたいという思いがあります。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・当然仕事が偏らないことが理想的ですので、毎月時間外の集計をすることで所属長が把握し、仕事の分散化に努めるようにしております。 ・また、カスハラ、不当要求については、一応体制を整えており、所属長を対象に不当要求防止の研修をやるなど、組織的対応を心がけることを念頭に置いて対応にあたっているところでございます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最近各企業でも、カスハラの対応方針を出しています。教育委員会の方で職員さんと話をしていると、各学校の先生方や教育委員会に対して、今まで以上に過激な発言をする人が多くて、すごく時間を取られていると聞きます。各部署だけでそれを作るのは難しいため、ぜひ人事課の方で全体的な方針を考えていただければと思います。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・カスハラという言葉がありますが、その定義はなんぞやというのがまだ社会全体ではっきりしていない状況で、市民の皆さんの声を聞くことにおいて、どこからカスハラなのかという線引きがなかなか難しい状況だと思います。厚生労働省では、民間企業も含めた労働環境の改善という視点から、カスハラとは何で、対応をどうすべきなのかを考えていますので、その定義が固まってきましたら、行政もそれに従って、カスハラ対策のルールを考えていくことになると思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップサービスという考え方について教えていただきたいです。福祉関係ですと、いろいろな手続きがあり、窓口サービス課などでは補助員の方がみえて、どういうことで来られましたかと聞いていただけすごく助かっています。手続きをするために一つの窓口へ行けば、職員さんが書類を作り、やっていただけるようなことがあると更に助かります。高齢者の方は、窓口に行かれても思うように進まないことがありますので、一時そのような考えもあったと聞いており、将来的には、そのようになると良いかなと思っています。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく高校や大学を出てきた方たちの電気、機械の新規採用は、申し込みが0となっていますが、学校への依頼はされているのでしょうか。

担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・技術職の確保が困難ということは、大変感じているところでございますが、今いる技術職員が卒業した大学や東海近辺の大学にアプローチをかけて、募集要項やパンフレットを配布して活動している状況です。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・OBの方がやっているだけで、人事課としてはやっていらっしゃらないということですか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・人事課といたしましては、インターンシップや公務員合同説明会の場でアピールし、岐阜大学や名城大学などの理系の学生に向けては、募集案内やガイダンスも行っています。また、受験前に仕事内容を理解してもらうように、技術者向けの就職ガイダンスを市役所で開いております。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・イビデンさんなどの大きい会社があるため、給料の面などからそちらへ行かれる方があると思いますが、早めに学校の先生方をお願いに行くなどの努力も必要だと思います。専門職は誰でもできる仕事ではないので、やはりそういうことが重要じゃないかなと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の8ページですが、他都市との交流で職員が刺激を受けるのは非常に素晴らしいことだと感じました。研修期間や特別な事業があるから派遣するのか、どのように決まっているのかをお伺いしたいです。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・ここに載せてある研修の期間は、大体3日間から10日間ぐらいの研修になります。一方で自治大学校は、2か月となるケースもあり、全国の自治体の職員が共同生活をしながら勉強していくというものでございます。この他にも、地域活性化センターや、その前はポニーキャニオンといった全国的に有名な会社などに職員を派遣し、能力を高めるものもございます。 ・また国の職員との交流もあり、技術系の職員が岐阜国道事務所に派遣をされております。1年、2年のスパンで、そのような人事交流を増やしていきたいと思っております。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・予算のかかることかと思いますが、自治体間での交換があれば、職員の皆さんが大垣市の狭い範囲で考えていることが、同じことでも全然違うということがあるかもしれません。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・後藤課長さん、ありがとうございました。 ・それでは、次の事業に移ります。
<p>※ 市民活動推進課長、男女共同参画室長に対し、議題(2) 令和6年度事務</p>	

	<p>事業の検証② かがやき婚活事業・女性（結婚）相談事業についての説明を要請。</p>
担当課	<p>※ かがやき婚活事業について説明。</p>
担当課	<p>※ 女性（結婚）相談事業について説明。</p>
会 長	<p>・ただいまの説明に対してご質問等ございますか。</p>
委 員	<p>・将来的には一元化した方がいいという思いがあり、ぜひ、そのようにお願いしたいと思います。かがやき婚活事業で結婚された 290 組の方にもこの中に入っていて、事業に参加したときの感想も含めてやっていただくのが良いかなと思っています。外部の人だけでなく、事業に参加されて結ばれた方の協力があると、次の事業を展開されるにも参考になるかなという思いがあります。</p> <p>・参加費が男女で差があるというのは、私はちょっとおかしいなと思っています。男女参画と言われているところもありますので、一緒に良いと思います。若い方がみえているので、その辺の話を聞いていただければと思います。</p> <p>・結婚相談所の登録料が無料となっていますが、無料では少しまずいと思います。いい加減な気持ちではなく、責任を持って登録されると思いますが、高額ではなくて良いので、負担していただく方が良いと思います。</p> <p>・皆さん出会いの場がないからなかなか結婚できない、社会の多様性もありいろいろ言われておりますけども、そういう場を提供していただけることはすごく大切なことですので、二つの事業については、将来的には一本化していただいてという思いでおります。</p> <p>・ハートリンクおおがきがどこにあるかほとんどの方が知らないと思います。例えば、20 歳を祝う会でそういったことを PR していただくと良いかなと思っています。この事業をやっていただいているところだけに任せるのではなく、できるだけいろいろな場面で PR していく、市民全体で考えていく機会を作っていただければと思っています。</p>
委 員	<p>・かがやき婚活事業についてですが、メンバーも知っている人が何人かおり、手弁当で一生懸命やってるのを知っていますが、時代の流れ的に民間でやっているものも多いので、市としての主催は減ってもいいんじゃないかなという気がしました。</p> <p>・3 ページで、定員合計 180 人に対して応募が 318 人ですが、実際の参加人数が 138 人というのは、条件に合わなかったということでしょうか。</p>

担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・男性に比べて女性の応募者が少ないため、できるだけ同数で開催したいということで、女性の人数に合わせて、男性を少なくさせていただいております。そのため、定員よりも参加者が少なくなってしまうところがあります。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・これは延べ人数だと思いますが、同じ人が複数回参加することもありますか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の場合には若干応募者が少なくなっていますので、そういうこともあります。男性の場合は応募者がかなり多いので、抽選の場合は、市内在住在勤の方や初めて申し込みいただいた方を優先していますので、なかなか順番が回ってこないこともあります。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回されてますが、いわゆる成立の確率の高いところに集約していくのも良いと思います。 ・結婚相談事業ですけども、こちらは開設日が週5日から3日に削減ということは、そこに常駐される方はいないということでしょうか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・常駐でいる方はおりません。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうすると、人件費もそれだけ下がるということですか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・相談日は減りましたが、日曜祝日は2人で対応することもあるとあって、今の最低賃金に合わせていくと、どうしてもこのぐらいの額になります。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県での広域事業ということもあるとあって、いきなりなしにはならないのかもしれませんが、一般的なものに置き換えもできるんじゃないかなという気がしますし、婚活事業も含めて統一した方が良いと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人から見ると、結婚したいかどうかは、高校生、大学生のときには大体ある程度意見が固まっている人が多いです。20代後半、30代になっても、結婚はしないと思ってる人は一定数いるので、そもそもの母数を増やすためにも、中学生高校生のときから結婚に対する魅力や、家庭や子どもを持つことの良さを知る機会があると、より結婚したい人が増えるんじゃないかなと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・かがやき婚活事業の女性の応募者が少ないというところで、女性も働く時代になってきて、結婚しないという人も出てきてると思います。こういうところに参加するのに気が引けてしまう方もいると思うので、応募者数を

	<p>増やすためにも、参加に対する支援のようなものがあれば良いなと思います。</p>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・古山課長さん、牧岡室長さんありがとうございました。 ・それでは、次の事業に移ります。 <p>※ 行政管理課長に対し、議題(2) 令和 6 年度事務事業の検証③ 審議会等運営事業についての説明を要請。</p>
担当課	<p>※ 審議会等運営事業について説明。</p>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの説明に対してご質問等ございますか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・審議会の多さにびっくりしましたが、計画・事業評価型については、同じような計画や類似したものを一つにまとめられた方が良いと思います。特に福祉の関係ではいろいろなプランがありますが、中身は根本的には同じということもあります。 ・パブリックコメントでは、既にある程度方向性が決まった上で意見を求めても、その後どうするかとはなかなかならず、結果的なことだと私は思っています。ホームページや地区センター等で見ることはできますが、なかなか見る人が少ないということがあります。 ・子どもや若者の参加をとということですが、開催日時が課題ですよね。土日に開催していただくと事務局の方が大変ですけども、もう少し参加しやすい審議会に進めていただくとありがたいなと思います。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの開催はどれぐらいありますか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの時期は一時やっていましたが、コロナが収束して、ほぼゼロとなっています。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・開催方法は、審議会を立ち上げた各部局が決めるということですか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にはそうなります。ただこちらは、審議会全体の制度的なものを司る部署でありますので、オンライン開催を推奨できるような立場にはありません。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・要綱の線が引いてある箇所が重要な部分だなと思い読んでいたのですが、私の団体にも 10 以上の審議会に参加しているような気がします。今の選出方法だと、役員の中で 2 つ以上はならないような感じで割り振っていま

	<p>すが、どうしても特定の人に偏りやすい印象があります。広く構成員の中からとなっていてますが、同じ人はいくつ以下にしてくださいというような制限を最初から設け、女性や年齢構成についても、女性は半数、40歳未満であれば2割以上など、具体的な数字を設定する必要があると思います。そのような縛りがないと、選びやすい人に頼みやすくなってしまいがちだったので、ここは具体的な数字を入れた方が良いと思います。</p>
<p>担当課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課の反発もあり、具体的な数字までは要綱上入れていないです。必ずこの割合でと言ってしまうと、団体をお願いしても出せないという回答が返ってきたりすることがありますので、努力義務的に書かざるを得ない部分があります。けれども、確かに数字を入れていくことは重要だと思います。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私もこういう審議会の委員をやらせていただいている中で、大垣市さんにご協力させていただいて有難いなと思います。前回少しお話したのですが、ある程度答えがある出来レースのようで、我々委員が集まって意見をまとめてやりましたということへ流されがちです。 ・年齢の部分では、もっと集まりやすいようオンラインでも良いと思いますし、昨日就任された石破総理じゃないですけども、納得と共感が得られるような会議体になるのが一番理想なんだろうなと思います。 ・審議会を立ち上げられて、いろいろな意見を集約されていますが、事業を実行した後の会議がないです。事業が成功したのか、予定通りなのか、少し失敗したのか、それを検証するような会議が組織にあるのかお伺いしたいです。
<p>担当課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政で計画を立てて事業を行い、事業が終わった後に計画策定評価を一つのプロセスとしてやっているような審議会もございます。ただ一方で、今委員さんがおっしゃられた通り、計画を立てておしまいとなっているところもあるかと思っています。計画を作って終わりではなく、やった結果を踏まえて次どうしていくのか、次の計画の改定や似たような事業の参考となるところがあるので、本来はそこまでがセットです。計画については、そのようにやっているところが多いと認識しております。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できましたら、そういう最後までチェックできるような体制作りがあれば、来年度同じ事業をやる場合にも、見直しをかけていく一つの反省材料にもなると思います。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5ページ(7)の審議会等において、「同一の者を重複して選任しようとする場合は、重複する審議会等の数を10以内とするよう努めること」とは、例

	<p>例えば私が他の審議会に入るのは10以内という意味でしょうか。</p>
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・その通りです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前半に出てくる10以上の審議会に選任されている委員に協立大学が入っていますが、それと話は同じですか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・1人の個人の方が10以内になるように努めるというところになります。自治会の方だと20、30の審議会入っていますが、その中で特定の方が10までとなります。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな審議会があると思いますけども、10以上の審議会に委員を務めてみえるような方はおみえですか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・みえます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大変ですよ。前回は申し上げましたが、女性の積極的な登用や若者の比率に何か工夫がないのかなと思います。本市の場合には、若者の比率は審議会全体の3%台で、あまりにも低いと思います。表現が難しいとは思いますが、具体的な目標数値が入らないのかなと。 ・今の政治の世界でもいろいろな世界でも、女性比率の努力目標が世の中の流れとしてあります。他の市の審議会の規定や要綱の中で、女性の登用比率の数値目標を定めているところはあるでしょうか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・国の男女共同計画の中では、40から60%という数値が示されていたと思いますので、それに倣ってというところはあると思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の件で言うと、高校や大学などの特定の団体に委員を推薦してもらうことはされていますか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・学生さんを枠としてお願いしていることは、私の知る限りではありません。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、できないわけではないですか。
担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・できないことはありません。市で依頼する団体は比較的年齢層の高い人が多く、第1回目審議会の時に、学生枠というのを設けて、学校に依頼したらどうかというお話を伺っておりますが、現時点としてはないです。学生さんに依頼するとなると、参加のしやすさをどうするのかにも繋がっていくと考えております。

担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の審議会後に、県内の他市に照会してみましたところ、大学枠を明確には設定していませんが、こども基本法の施行に伴って、個別に大学枠を設けてやっているという事案はありましたので、大きな流れとしてはそちらの方に行くのではないかと考えております。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・団体に依頼が来たからといって、全員に委員の推薦を聞いているわけではないと思うので、そういう意味では、もう少し範囲を絞った形で推薦依頼があっても良いのかなと思いました。例えば、ある程度大きい企業に対して、年齢枠で推薦をとということもありなのかなという気がしました。ぜひ比率は増やしてほしいです。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田課長さんありがとうございました。 ・これをもちまして、事務事業の検証を終了いたします。 <p>※ 事務局に対し、「令和6年度事務事業見直しの提言（案）について」の説明を要請。</p>
事務局	<p>※ 令和6年度事務事業見直しの提言（案）についての説明。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・提言案についてご意見をお伺いしたいと思います。人事管理事業について、ご意見がございましたらよろしく願います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私が1回目の会議でエンゲージメントという表現をした網掛けの部分についてですが、エンゲージメントを訳すと契約というような意味になります。民間企業においては、昔の言い方をすれば、愛社精神を高めながら企業収益を向上させていく、企業と社員の信頼関係ということで、これは民間にとってとても必要なことです。公務員さんにとってはどうなのかという、公務員さんにとっても、研修のカリキュラムに基づいて、適材適所の人員配置をすることが必要です。研修で学んだことをその場で生かし市に貢献していく、研修を踏まえた自分がどういう役割を与えられるのかという企業なら会社との約束みたいなところがあると、職員さんのやりがいにも繋がっていくと思い、発言させていただきました。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・定員の削減や働き方改革などいろいろあるとは思いますが、市の職員の方が市民のためやりがいを持って仕事ができるようにというニュアンスが入っておいりましたので、ぜひ残していただきたいと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保が最重要であり、そのためには採用方法の見直しも必要であると思いますが、採用方法だけでなく、働き方自体の多様性もあると思うの

	<p>ですがいかがでしょうか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「採用方法や働き方の見直し」という表現でよろしいでしょうか。
委員一同	<p>※異議なし</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に審議会等運営事業について、ご意見がございましたらよろしく願いいたします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よくまとめられていると思います。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・最後にかがやき婚活事業・結婚相談事業について、ご意見ございましたらよろしく願いいたします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の案では入っていませんでしたが、下の方にメタバースという言葉を入れております。他市ではメタバース婚活という、仮想空間環境においてアバターでパーティーに参加するという試みをやっていると聞いております。参加しづらいというお話がございましたので、言葉として入れさせていただきました。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市でも、教育研究所が不登校対策でメタバース活用の実証実験を進めており、参加するのには、そういった方法も手かなと思っております。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場作りに対しては、ここに書かれてるような内容で良いと思いますが、その後の追いかけについては、環境も変わってくる中において、我々が生活してきた概念とこれからの若い人たちの概念に対して責任を持てるかという、少し疑問を感じます。この事業は、あくまで出会いの場作り専念されて、その後を追いかけるようなところまで必要でしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その後のリサーチという部分でしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どこまで意識するかですが、情報提供を行うことで少子化対策や人口減少対策に繋げていくことを期待するとありますが、この事業でそこまで本当に期待をかけてやるかということです。原点に戻ると、出会いの場を明確に作って、結婚ということも含めた場作りができればそれでよしとして、それ以上のところを追いかけることを目的とすると、来られる方が重くなるんじゃないかと思います。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は逆の意見で、先ほどの資料では目的や趣旨が曖昧で、はっきり言って

	<p>これは少子化対策だと思っているので、人口減少対策という言葉が入った方が良いなと思っていました。行政がやる事業としてはただの合コンパーティーではなく、その先がないと意味がないと思っています。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・補足させていただくと、結婚生活のその後はどうですかという調査のように、後を追いかけていくようなところまでは踏み込まない方が良いんじゃないかという意味合いで申し上げました。 ・少子化対策の部分は、お互い出会って結婚して夫婦になれば、子どもへというのは自然の流れですので、それを掲げることを否定しているものではありません。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活事業的なものに統合していくという部分が少し読み取りづらいなと思いました。かがやき婚活事業と結婚相談事業そのものとの問題というよりは、市の婚活的な事業全般が統一的にされていくべきというところが、もう少し入ってもいいのかなという気がしました。読んでいると、この事業が拡大するようなイメージに感じました。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの事業を一体にした方が良いのではないかという意見を入れ、そこから話がやや発展し、婚活や結婚相談事業だけではなく、子育て事業として広く捉えたニュアンスを入れたつもりでした。ここは、2事業に限定した方が良いというお話でしょうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業の意見という意味で言うと、これがどうなるべきかもう少し具体的な方が良いのかなと思いました。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの事業の検証ですので、少子化対策、人口減少対策として両事業を一体的に取り組むことは重要ですよというのをまず言わせていただいて、さらに子育て事業への広がりの部分とその後のリサーチは削る方向でよろしいでしょうか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・成婚した世帯に対してインセンティブを与えるとありますが、その具体的な内容が分かりません。この部分はカットするということでもよろしいでしょうか。
委員一同	<p>※異議なし</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは令和6年度事務事業の見直しの提言につきまして、文言の最終的な調整は、会長に一任いただくということでご了解をいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員一同	※異議なし
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは次回の審議会において、私から市長に提言書を提出させていただきます。 ・最後にその他でございます。全体通して何かございましたらよろしく願いいたします。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚相談は女性連合のOBの方がやってみえますが、結婚相談は若い方だけでなく、最近、50代60代のご年配の方からの申し込みがあります。そういう方たちが伴侶を求めパートナーがあれば、独居老人がなくなることも役立っている部分があると思います。若い人だけの少子化対策でやっていますけど、最近、奥様を亡くされた方や、結婚してない方からの申込みが多いらしいです。独居老人が亡くなっていたりする問題もあるので、福祉の方にも多少役立つこともあるんじゃないかなと思います。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・これで終了させていただきます。進行を事務局の方にお返しいたします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・谷江会長を始め委員の皆様方から、貴重なご意見を様々いただきまして本当にありがとうございました。次回の審議会は、10月30日（水）午後3時30分から、大垣市役所4階会議室4-4で開催します。 ・令和6年度事務事業見直しの提言の市長への提出を予定しております。 ・以上をもちまして、令和6年度第2回大垣市行政改革推進審議会を終了させていただきます。